

Jesper Lysell

イエスパー・リュセル



GÖTEBORGS UNIVERSITET
INST FÖR SPRÅK OCH LITTERATURER
ヨーテボリ大学
文学部 言語・文学学科 日本語

拡張**新**字体の認識について

About the recognition of the extended new character form

鶯
↓

鶯
↓

鶯

学士論文 BA thesis in Japanese 2012年
指導教員 永野マドセン泰子先生
Supervisor: Yasuko Nagano-Madsen
Examined by Noriko Thunman

「拡張新字体の認識について」
”About the recognition of the extended new character form”

Jesper Lysell

Abstract

This thesis is concerned with the extended new character form (拡張新字体) in Japanese. The study of character form (字体) is not so common and as for the extended new character form, the studies are even more limited. The purpose of the present thesis is to investigate and analyze the recognition of the extended new character form by Japanese university students. About fifty Japanese university students were asked to answer a questionnaire consisting of three parts: in the first part, the students were asked to write an appropriate character while in the second and third parts, they were asked to select the appropriate characters where both the extended new character form and the standard character form were presented. The results of the selection tasks indicate that there is a weak tendency that the choice is related to the frequency of usage of the character in question. However, because of the diversity found among the characters, it cannot be concluded that the frequency of the usage is solely responsible in the recognition of character form. An error analysis of the writing task indicates, however, both structural similarity and relevance in meaning are involved in the recognition as well. Thus the recognition of the character form is thought to be affected both by the frequency of its usage, structural similarity, and similarity in meaning. Though limited in the scope and size of investigation, the present study has shown some areas to which future studies can be directed.

目次

1. 1	はじめに.	4
1. 2	問題提起.	4
1. 3	先行研究.	5
1. 4	目的.	5
1. 5	調査の仮説.	5
1. 6	アウトライン.	5
2	拡張新字体とは.	6
2. 1	定義.	6
2. 2	歴史的経緯.	8
2. 2. 1	「常用漢字表」の制定と字体.	8
2. 2. 2	JIS規格の制定・改定と字体.	8
3	調査.	10
3. 1	被験者・方法.	10
3. 1. 1	予備調査.	10
3. 1. 2	本調査.	10
3. 2	調査項目.	11
3. 3	調査結果.	12
3. 3. 1	筆記問題.	12
3. 3. 2	「手書き」文字を対象とした選択問題.	13
3. 3. 3	「活字」を対象とした選択問題.	14
4	分析および考察.	14
4. 1	仮説について.	14
4. 2	誤字分析.	15
4. 3	出現頻度による分析.	18
4. 4	構造要素による分析.	20
5	まとめ.	22
	参考文献.	22
	Appendix	23

1. 1 はじめに

私が日本語を学習したスウェーデンの大学のある授業で、教師が「比喩」ということばを黒板に書いたとき、「喩」の最後のところが下記（向かって右）のように「りっとう」になっていた。

例：

[当用字体]

喩

[黒板の文字]

喩

日本人の友達に訊いてみると、様々な意見が出たので、日本人でも混乱してしまう分野だと理解した。世代間によって、認識の違いもあるようである。常用漢字以外の字についても、二つ以上の字体を持つ漢字があるのが不思議で仕方がなかった。

今回の論文はこのような疑問に端を発したもので、講義的には「字体」に関するものである。

1. 2 問題提起

例えば、パソコンで「つかまえる」と入力すると、候補の中に「掴まえる」と「摺まえる」が出る。ということは、日本語では字体の併用があるということである。

「改定常用漢字表」（2010）によると、規格は印刷されている資料の漢字出現頻度だけをもとにして決められると書いてあるが、活字だけが日本語の実態を示しているということではない。したがって、手書きを無視した標準であるのは疑問が残る。

2010年6月7日に出版された「改定常用漢字表」では「常用漢字表」の漢字が変更され、削除や追加が行われるなかで、簡潔で、分かりやすい漢字使用の柵となったのは、元表外字¹とすでに簡略化されている常用漢字の併用であろう。

一方、「改定常用漢字表」には拡張新字体を用いるか、活字や旧字体のまま書くのかは人それぞれの自由だと考えた方がいいと述べられている²。活字使用についてもどちらの字体が多いか少ないかが述べられている³が、手書きの具体的な実態については何も述べられていない⁴。さらに追加字種における字体の考え方というところでは「手書き文字」を別のこととしていると述べられ、最も頻度数の多い字体を採用するとしている⁵。すでに「印刷標準字体」および「人名用漢字字体」に今回追加字種における字体が示されているため、表内の字体を改めないことが安定している字体の使用状況に大きな混乱をもたらすことを防ぐことにつながるらしい⁶が、字体の併用における混乱については何も述べられていない。以上のことから「字体の併用における混乱」の実態を把握する必要があると考えられる。

¹ 2010年まで常用漢字表に入っていなかった、新しい常用漢字。

² 文化審議会 (2010) pp.(22)

³ 文化審議会 (2010) pp.(13)

⁴ 文化審議会 (2010) pp.(22)

⁵ 文化審議会 (2010) pp.(13)

⁶ 文化審議会 (2010) pp.(13)

1. 3 先行研究

字体や漢字の先行研究として有名なのは池田（例えば 2010）が挙げられる。しかし、拡張新字体については阿辻哲次の「戦後日本漢字史」（2010）に漢字とパソコンの歴史を踏まえながら、拡張新字体について幾分か述べられているのみであり、拡張新字体が若い世代の日本人の間でどのように認識されているかについては、ほとんど研究がないようである。筆者の知る限り先行研究は見当たらない。

1. 4 目的

- 日本人大学生が拡張新字体をどのように認識しているか、その実態をアンケート調査により把握し分析する。
- 「改定常用漢字表」で標準と定められた字体が手書きの実態に反映されているかを明らかにする。

1. 5 仮説

- 1) 表外字の複雑な字体より、常用漢字の中に入っている簡略化されていた字を書くことに慣れているため、筆記問題では拡張新字体の回答が多い。（字体の簡略度）
- 2) 表外字は小説や他の日常生活でよく目にする文章で広範に使用されているため、選択問題では拡張新字体の回答が少ない。（字体の頻度）
- 3) 選択肢で迷う人は簡略化されている字体のみか旧字体のみを選ぶ。（字体の簡略度および頻度）
- 4) 字体の認識はその出現頻度や簡略度だけでは説明がつかず、より複雑な要因がかかわっている。

1. 6 アウトライン

第2章では、「常用漢字表」の歴史を踏まえながら、拡張新字体について説明する。第3章では、調査の概要について説明し、第4章ではその結果を分析考察する。仮説の妥当性について言及した後、調査で得られた誤字の分析および出現頻度による分析と構造要素の分析を行う。第5章は本論文の結びとなる。

2. 拡張新字体とは

2.1 定義

拡張新字体とは、「常用漢字表で採用されている新字体の略し方を、常用漢字表にない漢字にも及ぼした字体」と定義されている⁷。次の例では冒瀆の「瀆」が「洗」に略されている。

例：

[当用字体]

瀆

[拡張新字体]

洗

なお、2010年の「改定常用漢字表」が導入されてから、旧字体の要素をそのまま持つ漢字が常用漢字に入ったため、上記の定義が幾分紛らわしくなった。下記を見ると、両方が常用漢字でも、右の「嗅」の「犬」には点がついているのに、左の「臭」には点がついていない。

例：

[簡略化された常用漢字]

臭

[間略化されていない新しい常用漢字]

嗅

このような事例について詳細な関連調査はないようだが、阿辻氏は「臭」や「点がついている臭」の字形の混乱について「両者が同じくらいに社会でよく使われていたのならば、そのうちのどちらか一つの字体を選ぶ作業が必要であることはまだしも理解できる」と述べている⁸が、現状ではこの不規則的な状態が続いていると思われる。漢字の伝統を守るのか、簡略化を進めるのか。字体の選定にこだわるよりも、混同を避けるための規格を導入した方が良いのではないだろうか。

なお、活字の字体が筆写の楷書によって、多少変わることがある。例えば、以下の筆写の楷書のように、「戸」の明朝体活字はいろいろな書き方があるものと見られている⁹。

⁷ <http://ja.wikipedia.org/wiki/拡張新字体>（閲覧日付 2011 年 8 月 1 日）

⁸ 阿辻(2010) pp. 121

⁹ 文化審議会 (2010) pp.(20)-(21)

例：

[明朝体活字]

[筆写の楷書]

戸 — 戸 戸 戸

本論文ではこれについては、楷書字体の差ではなく、「改定常用漢字表」に従い字形の差としてみなしている。

しかし、以下の例は字形の差ではなく、字体の差の例である。括弧内の漢字は印刷文字である明朝体の字形に倣って書いたものだが、筆写の楷書ではどちらの字形で書いても差し替えない。なお、括弧内の字形の方が、筆写字形としても一般的な場合があると「改定常用漢字表」に言及されている。¹⁰

「筆写字形としても一般的な場合がある」と述べられているが、どちらの字体が多いかは述べられていない。したがって、調べる価値はある。

例：

喩 — 喩 (喩)

反対に従来は二つの字体として区別されていたものが、拡張新字体では同一漢字で表記されるようになった例もある。

うそ

鶯

↓

うぐいす

鶯

↓

うそ／うぐいす

鶯

「鶯（うそ）」と「鶯（うぐいす）」が全く違う鳥に関わらず、両方の漢字の拡張新字体では鶯、つまり同じ漢字になる。

¹⁰文化審議会 (2010) pp.(22)

2. 2 歴史的経緯

2. 2. 1. 「常用漢字表」の制定と字体

漢字は、日本人がそれを模倣する前に、古代の漢民族によって作り出された文字である。しかし、中国語と日本語が全く性質の異なる言語のため、工夫を加えなければならなかった。日本語ならではの語尾変化や助詞を表すために、簡略化された漢字あるいは漢字の一部から作られた平仮名と片仮名を合わせて使用することになった。さらに「峠」や「畑」みたいに日本で独自に形成された漢字もある。

1989年から1990年にわたって出版された大漢和辞典修訂二版には50,305もの漢字が収録されているが、一般の社会生活における「漢字使用の目安」を定めている「改定常用漢字表」は2136字である。漢字はアルファベット表記と異なり多くの場合、形態素に対応し一文字が一語に対応するからである。

分かりやすく通じやすい文章を表すための漢字使用を制限するために、1981年に「常用漢字表」が文部科学省によって定められ、同年内閣告示された。この表には、1945字が含まれている。

当時「常用漢字表」に入っている字は簡略化の要素が統一されている。たとえば、旧字体の「しめすへん」（示）を持っている字はすべてカタカナの「ネ」に良く似た要素が使用されている。また「しんにょう」が入っている漢字でも点が一つ省略されている。例えば、下記に見えるように、旧字体の「謎」の「しんにょう」に点が二つ付いていても、簡略化された「迷」には点が一つしか付いていない。同じように、「しょくへん」が旧字体の「餅」は、簡略化された「飲」より幾分か複雑な字体になっている。

[旧字体]

[当用字体]

[旧字体]

[当用字体]

謎

迷

餅

飲

常用漢字は、2010年に改定され、196字が追加されたほか、5字が削除された。不思議なことに、新しく追加された漢字の中に、「しんにょう」（例：謎）や「しょくへん」（例：餅）が旧字体のままになっている字がある。今まで「常用漢字表」に入っている漢字の字体が規則的だったが、簡略化されていない文字の追加のせいで、複雑になったことで、日本語話者にも影響を及ぼすだろう。

2. 2. 2. JIS規格の制定・改定と字体

ワープロやコンピューターの内部では各種の文字を数値として扱っており、それぞれの文字・記号にコードが割り当てられている。たとえば、コンピューターに「2719」というコードを送ると「山」という漢字が出る¹¹。

コンピューターで漢字を扱う規格がはじめて作られたのは1978年のことであり、財団法人日本規格協会による日本工業規格（Japanese Industrial Standard JIS）で規定された、「情報交換用漢字符合系」（JIS C 6226）が作られた。この規格のおかげで、どこの会社が作ったコンピューターでも同じように処理できるようにな

¹¹阿辻(2010) pp. 206

った。約6000文字がコードを与えられた¹²。

1983年にJIS C 6226が大幅に改訂され、JIS C 6226-1983となった際に、いくつかの変更が加えられた。このため、コンピューターの機種によって文字の表示が異なることになった。

[78JIS]

檜

[83JIS]

桧

たとえば、78JISを搭載している機種から「檜」という字を送っても、相手が83JISを搭載していれば、「桧」として表示されることになる¹³。

いくつかの表外字が83JISで簡略化されたため、簡略化されていない字体を打つことができなくなったうえに、表示することもできなくなった。たとえば、これまでの「摑」や「瀆」が「摑」と「洸」となった。

「当用漢字表」でも「常用漢字表」でも、その表に入っていない漢字についてはまったく言及しておらず、もちろんそれらについての正規の標準字体も定めていない。しかし、「國」と「賣」という旧字体の漢字が常用漢字の中では「国」と「売」となっている。JISはこの簡易化を採用しただけである¹⁴。

[旧字体]

國
賣

[新字体]

国
売

しかし、最近は再びほとんどのパソコンで「摑める」や「冒瀆」を打てるようになった。

「改定常用漢字表」は出現頻度表をもとにしたが、手書き文字の出現頻度についてどちらの字体が多いか述べられていない¹⁵。したがって、本論では日本語話者の手書き文字を調べることにした。

表外字の字体の実態を調べるために、将来日本語の表記体系の運命を担う日本人大学生にアンケートを行おうと考えた。

¹²阿辻(2010) pp. 206-207

¹³阿辻(2010) pp. 207

¹⁴阿辻(2010) pp.209-210

¹⁵文化審議会(2010) pp.(13)

3 調査

3. 1 被験者・方法

3. 1. 1 予備調査

本格的な調査の前に、簡単な予備調査を行った。調査に参加したのは東京学芸大学におけるスウェーデン語勉強会参加者5名である。

今の大学生の手書きの字にどのくらい拡張新字体が浸透しているのかを調べるため、30字を選び、筆記試験形式で調査を行った。

調査の30字の中で「改定常用漢字表」に追加された5字以外に25字は表外字であり、要素の中に、常用漢字で簡略化されている要素を持っている。常用漢字に入っている字は2010年に新しく追加された「嗅」、「諭」、「謎」、「賭」と「葛」だが、追加されるときに簡略化されなかったため調査に用いようと考えた。すでに知られている簡略化された要素を採用せずに追加された字の書き方の実態を調べるのも興味深いと思われた。「諺」が「諺」の俗字だということは新漢語林に書いてあるので、字体か字形かの差が明確ではなく、このため被験者の回答が興味深いものになると考えられた。

字の順番は無作為であり、選択肢問題で当用字体が左に出る傾向があるが、全文字はそうではない。上記の仮説にも述べているが、片方の欄の文字だけを選ぶ人がいるだろうと思う前提で、これを防ぐためにいくつかの文字を違う欄にした。

しかし、予備調査を行ったところ、回答者は私が期待した漢字力を持っていなかったため、他の大学生も似たような結果になるだろうと考えアンケートを修正し、「適切な漢字を選んでください」という二者択一の問題を増やすことにした。

3. 1. 2 本調査

3. 1. 1の結果をふまえて、最終的な調査は下記の図のように三つのセクションに分かれたものとなった。筆記問題の比率が低くなっている。

表1 調査の問題の割合

筆記問題	5字
手書き字の選択問題	14字
活字の選択問題	11字

問題以外に回答者の性別と年齢も書かせた。

本調査では、予備調査のときにある程度正しい字が出たところをそのままにし、残りを選択問題にした。一部の拡張新字体は活字として存在しないか使っているパソコンで打てなかったため、手書き文字を採用した¹⁶。両方活字がある場合は活字を用いることにした。

調査期間：

調査は2011年6月末～7月中旬にかけて東京学芸大学で行われた。調査対象となったのは東京学芸大学で勉強する日本人大学生51名であった。

¹⁶ 中国人留学生・童琳による

3. 2 調査項目

拡張新字体で表現できる可能性のある漢字で、比較的頻度が高い漢字を候補にした。頻度の目安としては「改定常用漢字表」に新しく追加された漢字は出現頻度が高いと考えられるので、その中から拡張新字体ができる可能性のある漢字を5字選んだ。次の通りである：

表2 調査に使用された新しい常用漢字

改定常用漢字表に新しく追加された漢字	嗅 か(ぐ)	喩 ゆ	謎 なぞ	賭 か(ける)	葛 くず
拡張新字体	嗅	喩	謎	賭	葛
調査の例文	花の香りを嗅ぐ	比喩的な言い方	謎を解く	トランプにお金を賭ける	マメ科の葛

30字程度がアンケートの回答者にとって適切な内容と考え、上記の5字以外に次の字を追加した。

表3 調査に使用された表外字

1. 餃	2. 鰯	3. 疇	4. 霽	5. 臍
6. 齧	7. 嘔	8. 鸚	9. 欒	10. 祀
11. 轆	12. 鶯	13. 瘞	14. 滲	15. 撥
16. 嘘	17. 諺	18. 藪	19. 篔	20. 擱
21. 噌	22. 攪	23. 檜	24. 煉	25. 澆

各漢字は当用字体で示され、調査と同じ順番（新しい常用漢字を除く）である。

Appendix 9 「アンケート調査」ではアンケートが見られる。

3. 3 調査結果

答えをまとめるとき、意外に多くの方が自分の年齢を書かなかつたり、名前の欄だと勘違いしたりしたことが分かった。性別の欄も同じく、記入しなかったものもあり、明らかに自分の性別を教えたくない、男と女の選択肢の中の「・」を選んだ人もいたので、男女別や年齢別の分析は行わないことにした。

調査の問題を主に二つのグループに分け、調査の結果を見てみる。

3. 3. 1 筆記問題

表4は筆記問題の結果をまとめたものである。まず該当漢字を示しそれに対して書かれた「当用字体」「拡張新字体」「誤字」「無回答」の数を示した。

表4 筆記問題結果（灰色に塗られているところの回答が最多）

順番	1.	2.	3.	4.	5.
漢字	餃	嗅	鰯	喩	謎
当用字体	3	6	0	27	0
拡張新字体	5	10	24	3	30
誤字	13	17	3	12	14
無回答	29	17	23	8	6

上記の表を見ると、筆記問題では圧倒的に拡張新字体の選択が多く、特に「鰯」「謎」では当用字体を選択した学生はゼロであった。しかし、回答数を見ると、漢字によって回答が大きく違うことも分かる。なぜかという、無回答もしくは誤字で回答する者がいたため、このような結果となった。当用字体や拡張新字体の範疇に入らない漢字は誤字の欄に入れ、誤字の分析（4. 2）の章で、さらに調べる。

主な結果は拡張新字体の回答が5字中4字であることに對し、なぜか「喩」の結果だけは違い、当用字体の回答が多かった。「喩」と他の字との違いについては、出現頻度による分析（4. 3）の章でさらに述べる。「餃」と「嗅」の回答は、誤字が当用字体と拡張新字体のまとめた回答数を上回ったので、誤字を調べるとさらにこの二字の認識についての理由が深まるだろう。

3. 3. 2 「手書き」文字を対象とした選択問題

選択問題については二つのグループごとに調査を行った。一つ目のグループは手書き文字の選択問題で、二つ目は活字の選択問題だったので、結果をグループごとに紹介する。表5は「手書き」文字を対象とした選択問題の結果をまとめたものである。

表5 手書き文字の選択問題（「当用」＝当用字体 「拡張」＝拡張新字体
灰色に塗られているところの回答が最多）

順番	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
漢字	疇	霽	臍	齧	賭	嘔	鸚
当用	46	18	37	17	14	48	33
拡張	5	33	14	34	37	3	18
順番	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)
漢字	欒	祀	轆	鶯	瘞	滲	撥
当用	49	47	41	41	50	11	39
拡張	2	4	10	10	1	40	12

手書きによる文字を対象とした選択問題の結果を見ると、14字の中で当用字体の回答が半分以上を占めたのは10字。つまり、当用字体の回答が多かったが、拡張新字体の回答が多かった字の結果をより詳しく調べると、拡張新字体の回答数が4字中3字、当用字体の2倍以上の回答数を得ていることが分かる。したがって、結果は各被験者の好みの字体を選んだ結果ではなく、どの字体を選ぶのかが漢字によって異なるという解釈が適切であろう。

調査を行ってから、「轆」の手書き文字の「白」の要素を囲む二つの「幺」が「糸」になっていることに気づいたが、他の字と勘違いする確率が低いと考えられるので、この微妙な違いが調査の結果を違う結果に導いたということではないだろう。

3. 3. 3 「活字」を対象とした選択問題

表6は活字を対象とした選択問題の結果をまとめたものである。

表6 活字の選択問題（「当用」＝当用字体 「拡張」＝拡張新字体
灰色に塗られているところの回答が最多）

順番	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
漢字	嘘	諺	藪	篋	搥	噲
当用	0	8	30	34	16	7
拡張	51	43	21	17	35	44
順番	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	
漢字	攪	檜	煉	瀆	葛	
当用	15	40	22	37	35	
拡張	36	11	29	14	16	

選択問題で当用字体の回答が多いだろうという仮説を述べたが、活字の選択問題を見ると、拡張新字体の回答が多かった漢字が11字中6字だった。半分を超えたとはいえ、ここでも漢字によって回答が異なるという結果が出たことになる。

4 分析

4. 1 仮説について

調査の意図が分かった回答者が何人かいたことに気づいた。そのうちの一人の興味深いコメントを紹介する。

「面白い研究ですね、日本では中国の簡体字のように、簡略化した漢字の一部とその部分をもつ他の漢字にも反映させることは、少ないと思います。難しい書き方の方が自分では書けなくても見慣れていて、意味もすんなりと入ってきます。」

その人の回答が面白いことに、大半と同じく「嗅」の最後の点がなかった。どの漢字が簡略化されているか何が簡略化されていないかの認識の差があるということが分かる。

一つ目の仮説は、筆記問題で拡張新字体の方が多いと予想したことである。理由は字体の簡略度のためである。結果を見ると、そのようであった。5字のうち4字は拡張新字体の方が多かった。しかし、「諭」だけは当用字体の回答が多かった。

「諭」が多かった理由について調べる価値はあるだろう。当用字体か拡張新字体ではなく、誤字を書いた人も少なくないので、誤字の要素をもとにし、考察する必要があるだろう。「嗅」と「謎」は簡略化されずに常用漢字に追加されたが、本調査によると、「嗅」のつくりと「謎」の「しんにょう」を自分の手で略する人が多い。実態に合わせ、この字を簡略することについては考慮すべきだろう。今回調査の対象とした漢字は5つと限られていたため、ここから結論を導くのは難しいが、しかしある程度の方向性は示されたと言える。

二つ目の仮説は、選択問題では拡張新字体の回答の方が少ないということである。これは当用字体の方が使われる頻度が多いという理由である。選択問題の結果をまとめると、25字中15字は当用字体の回答が多かった。したがって、仮説の一部は

合っていたといえる。しかし 25 字中 10 字は該当せず、例外として扱うには数が多すぎるためそれ以外の仮説を考える必要がある。

三つ目の仮説は、選択肢で迷う人が左か右の欄のどちらかの回答だけを選ぶという設問で、理由としては字体の簡略度と頻度を考えたものだったが、一人もそうしなかった。よってここでも他の仮説（例えば仮説 4）を考える必要がある。

4. 2 誤字分析

4. 1 で報告されたように、字体の認識については単純にその頻度や事態の簡略度では説明ができない事がわかった。そこで 3. 1. 1 で扱われた筆記問題で得られた回答の中の誤字についてさらに詳細な分析を試みた。被験者の漢字認識についていくつかのことが言える。なお、調査に出た誤字の全ては Appendix 8「筆記問題の回答に出た誤字」で表示されている。

[当用字体]	[誤字 1.6]	[誤字 1.7]	[誤字 1.8]
餃	餛	餹	餽
回答 :	1	1	1

まず「餃」についてであるが、誤字は全部で 9 例あった。そのうち「つくり」の間違いが 9 例、「へん」と「つくり」両方が間違っていたのは 1 例（誤字 1.9）。「つくり」について見れば、上記の誤字の例のように旧字体の「しょくへん」が「つくり」のかわりに誤った字形になっており、この例から誤字例が「視覚的類似」によって導き出されたものと仮定することができる。当用字体の「しょくへん」と旧字体の「しょくへん」の要素をもっている誤った「しょくへん」という誤字が見られるということは、「しょくへん」が意符になっていることと「交」が音符になっていることが、ある被験者には理解できていないようである。

[本字]	[当用字体]	[誤字 2.2]
鼻	嗅	嗅

「嗅」については、誤字は全部で 7 例あった。そのうち「つくり」の間違いは 6 例、残りの例は全く別の漢字が出た例である。上記に「嗅」の本字、当用字体と誤字の一例が示されている。新漢語林を見ると、「嗅」の本字は「くちへん」のかわりに、「はなへん」になっていたようであるため、当用字体は幾分か分かりにくくなっていることが分かる。「自」は「鼻」にも「嗅」にも構成要素として現れ、「鼻」と「嗅」は意味的に関連が強い。しかし「自」を「白」と混同する被験者もいたが、これは単に字形の類似によるものであろう。

[当用字体]

嗅

回答：

[誤字 2.1]

嗅

6

[誤字 2.2]

嗅

3

[誤字 2.6]

嗅

1

上記の例を見ると、「嗅」の「自」が「白」になってしまう回答が10個もある。したがって、「嗅」の「犬」と「大」の混同だけが問題ではなく、「白」と「自」の混同が被験者の漢字の知識不足を示しているように考えられる一方、自分なりの略字として使っている人もいるだろう。その割合は本調査では分からない。

[当用字体]

嗅

回答：

[誤字 2.3]

臭

2

[誤字 2.4]

香

2

[誤字 2.5]

匂

2

上記の3つの誤字を見ると、「嗅」の当用字体か拡張新字体を書かずに、嗅覚に関する他の字を書いた人もいたことが分かり、これは「意味的類似」による誤字と仮定することができる。誤字2.3は「くちへん」がなく、元の漢字のつくりだけが残っている。誤字2.4については該当する漢字がないのであるが、この字を回答した被験者が二人いることが興味深い。回答者は「嗅」には「くちへん」があると知っていたようだが、つくりは「臭」か「香」か分からず、迷った末「香」を選んだのかもしれない。「嗅」と「匂」の両字は意味が近いことから、誤字2.5を書いた被験者は意味的解釈を経て漢字を選んでいることが推測される。

[当用字体]

弱

回答：

[誤字 3.1]

鮮

1

[誤字 3.2]

鯉

1

[誤字 3.3]

弱

1

「弱」の誤字は比較的少なく、3例であった。誤字に共通しているのはいずれも「つくり」の部位が間違っていることで、「へん」は正しく把握されていた。「つくり」については誤字3.3の「羽」には視覚的に「弱」と共通する要素があり、これは「視覚的類似」によって導き出されたものと仮定することができる。残りの「羊」と「里」については、説明が難しい。

[当用字体]

喩

回答：

[誤字 4.1]

輸

2

[誤字 4.2]

諭

2

[誤字 4.3]

諭

1

[誤字 4.4]

愉

1

「喩」の誤字のは最も多く、10例に及んだ。4例は「へん」が間違っていたもので、「つくり」が間違っていたものが3例で、両方が間違っていたのが2例で、1例は別の漢字であった。意味的に近い「ごんべん」を選んだのは理解できるが、「くるまへん」、「りっしんべん」と「こごとへん」はなぜ回答されたのか。これは意符より音符の方が思い出しやすい証拠だろう。その上、「輸入」や「愉快」などの単語が「比喩」より日常生活で読む文

献で頻繁に出てくるため、このような回答が出たのだろう。「こざとへん」の誤字だけは書かれた理由が説明しにくい。

[誤字 4.5]	[誤字 4.6]	[誤字 4.7]	[誤字 4.8]	[誤字 4.9]
喻	喻	喻	愉	愉
回答： 1	1	1	1	1

上記の誤字は元の漢字のある部分が除かれているか加えられているものである。これで「愉」の間違えやすい要素が明らかになる。「人」の下にある「一」がない例、「一」の下にある「く」が一個追加される例、「月」が除かれている例、立刀のかわりにもう一つの「月」が追加される例がある。

[当用字体]	[誤字 4.10]
喻	撓
回答： 1	1

上記のような「喻」の回答は解釈が難しい。「てへん」に「発」（4.10）という字の「喻」との共通点はつくりの上の方の形だけだろう。

[当用字体]	[誤字 5.1]
謎	迷
回答： 5	5

「謎」の誤字は全部で9例あった。そのうち「へん」がなくなっているか間違っている誤字が2例で、「つくり」が間違っているものは6例で、両方が間違っているものは1例である（誤字 5.7）。「謎」の最も多かった誤字は「ごんべん」がなくなった「謎」、つまり「迷」である。

[誤字 5.2]	[誤字 5.3]	[誤字 5.5]	[誤字 5.6]	[誤字 5.7]
謎	誕	謎	謎	繼
回答： 2	2	1	1	1

上記の誤字では「しんにょう」がなくなっている。

頻度が比較的高い「誕生日」の「誕」の字の構造の影響を受け、「しんにょう」を「えんにょう」として書いた人がいるうえに誤字 5.2、「誕」（誤字 5.3）を書いた人もいる。

誤字 5.5と 5.7を見ると、L形の字形がある。誤字 5.6は「しんにょう」に似ている要素がないかわりに「林」と冠がない「定」がある。

一瞥すると誤字 5.7は、「謎」に見られるだろうが、しんにょうがL形になっているうえに、「ごんべん」が「いとへん」に化けている。

[当用字体]

謎

回答：

[誤字 5.4]

誅

1

[誤字 5.8]

談

1

[誤字 5.9]

詠

1

「しんにょう」がなくなり、代表する要素がない場合は上記のようになる。誤字 5.4 は元の漢字「謎」の「米」がそのままになっているが、誤字 5.8 と 5.9 を見ると、「米」が「炎」と「水」になっている。上記の結果をもとにし、「米」、「炎」と「水」が視覚的に類似していることが言えるだろう。

へんやつくりだけを書き、空白を残した人も多くいた。今回は数としてはわずか 5 例を扱ったにすぎない。しかし、分析結果は多岐にわたり、いろいろな仮定に繋げることができる。将来の研究分野として期待できるのではないだろうか。

4. 3 出現頻度による分析

選択問題では当用字体が最も多く選ばれたが、字によって結果が大きく異なる。たとえば、「嘘」という文字を小説で見るのが珍しくないことにも関わらず、全被験者が「嘘」を選んだ。これはなぜだろう。パソコンで「滲」を打ったら、当たり前のようにつくりが「参」の旧字体になっているが、被験者の 78% が拡張新字体の方を選んだ。手書きに限られている字体なのに、なぜ拡張新字体の回答が多かったのだろうか。

活字として存在していないもしくは文章に滅多に出てこないことにも関わらず、ある要素に馴染みがあるだけで、その字を選ぶことに誘導されるだろう。漢字出現頻度表をもとにし、調査の漢字の出現頻度順位を調べることで何かが言えるだろう。調査に用いた漢字やその要素の出現頻度を調べた。

なお、調査に出た漢字だけではなく、その簡略化されている要素の漢字の出現頻度も調べることにした。たとえば、「滲」だけではなく、「参」の出現頻度も調べ、簡略化されている要素の出現頻度で何かのつながりが見えるか調べる。しかし、この調べ方で問題が発生した。鸚鵡の「鸚」のへんの簡略化されている活字がない。当用字体の「嬰」の出現頻度を調べても、簡略化されている要素について何も分からないので、かわりに同じ簡略化されている要素がある「桜」の出現頻度を調べることにした。

「爨」の拡張新字体の活字がパソコンで打てないらしいが、簡略化されている音符の「亦」があるように見える。しかし、新漢語林によると、「爨」の音符は俗字や拡張新字体で「亦」と差し替えられるが、「亦」の由来を調べたところで、「爨」とは関係がないようだ。したがって、「亦」の出現頻度を調べると、簡略化の過程とはあまり関係がないことが言える反面、目にする要素が変わらないので、調べる価値はあるということも言える。しかし、「亦」が大変出現頻度が低い字である上に、常用漢字に同じ要素がある漢字が入っているので、「亦」のかわりに「恋」の出現頻度を調べることにした。

「祀」の簡略化されている要素を示すと、カタカナの「ネ」になる。漢字ではない以上、漢字出現頻度表には載っていない。したがって、簡略化されている「しめすへん」が入っている漢字のなかで、出現頻度が最も高い漢字をかわりに候補にした。

「鶯」の冠を簡略化したら、「学」の冠と同じ要素になるが、由来を遡ると、「学」の元の漢字の冠と「鶯」の冠が違うことが分かる。「学」がもともと「學」

になっていたので、理想としては「鶯」と同じ冠になっていた簡略化されている字をかわりに調べたかった。営業の「営」の旧字体の「營」を見ると、冠は「鶯」のと同じことが分かる。したがって、「営」の出現頻度を調べることにした。

「葛」から草冠を取ると、「曷」という字になるが、これは簡略化されていない字である。「曷」の簡略化された字体の出現頻度を調べようと思うと、「曷」が一部になっている「渴」のような字を参考しなければならない。したがって、「渴」の出現頻度を調べることにした。

以上の問題を以下の表にまとめる。

表7 代表字

順番	漢字	代表字
2.7	鸚	桜
2.8	戀	恋
2.9	祀	社
2.11	鶯	営
3.11	葛	渴

「Appendix 4 当用字体の回答が多かった漢字」を見ると、当用字体の回答が多かった漢字は全て出現頻度が低いことが分かる。調査の漢字の出現頻度の中央値は上位 2500 位以下の位置となっている。関連漢字の出現頻度の中央値は 284 位である。さて、拡張新字体の回答が多かった漢字の出現頻度はどのようになっているだろう。

「Appendix 5 拡張新字体が多かった漢字」を見ると、調査の漢字の出現頻度の中央値は当用字体の回答が多かったのと同様に上位 2500 位にない位置となっている。不思議なことに、関連漢字の出現頻度の中央値は 607 位。したがって、当用字体の回答が多かった表と拡張新字体のが多かった表の主な結果を比較すると、おそらく出現頻度と関係がないことが明らかになる。

しかし、出現頻度表をもとにすると、下記の漢字の回答が説明できる。

[当用字体]

嘘

上位 2500 にない

[拡張新字体]

嘘

1526 位

[簡略化された音符]

虚

上位 2500 位にない

当用字体の「嘘」が出現頻度表の上位 2500 位にない上に、被験者によって全く選ばれなかった一方、拡張新字体がなぜか活字で頻繁に使われている。したがって、被験者が拡張新字体を選ぶ確率が高い。字の中の要素の出現頻度も結果と関係があると思われたが、「虚」の出現頻度が低いようで、この漢字の回答と関係がないと考えられる。

[当用字体]

搦

上位 2500 位にない

[拡張新字体]

搦

1828 位

[簡略化された音符]

国

51 位

「搦」の音符の「国」の出現頻度が非常に高い漢字であるため、新字体の「国」が入っている「搦」を選んだ人が多かったと考えられる。一方、「搦」の音符が旧字体のままになっている上に、当用字体になっていることに関わらず、旧字体と思われがちであるため、適切な漢字が「搦」だと考えた人が大半以上を占めたであろう。

4. 4 構造要素による分析

漢字の部位は配置される位置によって次のように分けられている。

- 偏（へん）：左側に位置する。
- 旁（つくり）：右側に位置する。
- 冠（かんむり）：上側に位置する。
- 脚（あし）：下側に位置する。
- 構（かまえ）：外側に囲むように位置する。
- 垂（たれ）：上部から左側を覆うように位置する。
- 繞（にょう）：左側から下側をとりまいて位置する。

さて、漢字の部位によって、結果と何かの繋がりがあるだろうか。表 8 は部位別に結果をまとめたものである。

表 8 簡略化された部位別分析（選択問題のみ）

簡略化された要素	当用字体	拡張新字体	字数
偏（へん）	2 字	0 字	2 字
旁（つくり）	7 字	8 字	15 字
冠（かんむり）	2 字	0 字	2 字
脚（あし）	4 字	2 字	6 字

上記の表で調査の漢字を一瞥すると、編とつくりの組み合わせの漢字が半分以上を占めているので、調べても、何かを証明するためのデータが間違いなく不十分である。

しかしながら、調査の漢字を構造要素別にマークする過程で大事な発見があった。調査に用いた漢字はすべて形声文字だが、例文によって漢字の発音を表している音符が明らかになっている漢字となっていない漢字があるので、音読みの形声文字と訓読みの形声文字という二つのグループに分けることにした。

範疇

疇の音読み発音は壽と同じであるということは、形声文字であることを表している。

Appendix 6と7に「音符」としてマークされている。

臍を啗む

臍の音読みの発音は齊と同じであるということは、形声文字であることを表しているが、例文で用いられている発音は訓読みである。

Appendix 6と7に「(音符)」としてマークされている。

上記のグループ分けをもとにし、下記の表をまとめた。

表9 選択問題の構造要素分析

漢字	当用字体の回答	拡張新字体の回答
音符	8字	2字
(音符)	6字	7字

上記の表の結果をまとめると、音読みの形声文字で当用字体の回答が多かったことが分かるが、訓読みの形声文字なら拡張新字体の回答が少しだけ多かった。したがって、結果は形声文字の読み方と関連があるということは言いにくい。

上記の表やAppendix 6と7をもとにすると、調査のデータが不十分であることが分かる。拡張新字体の認識を調べる調査であるため、調査に使用した漢字は全ての漢字の構造を網羅できていない。調査の漢字は全部形声文字である上に、へんとつくりの組み合わせの漢字が大半を占めていて、万が一漢字の構造と被験者が当用字体か拡張新字体を選んだ理由と関係があっても、本調査の漢字では証明できない。これをさらに調べる価値はあると思われる反面、被験者が拡張新字体か当用字体のどちらを選んだかが漢字の構造と関係がないことも考えられる。

5. まとめ

本論文では拡張新字体の認識について日本の大学生に筆記問題および選択問題の調査を行った。結果をまとめると以下である。筆記問題では拡張新字体の回答が多く、選択問題では当用字体の回答が多かったが、漢字による違いが大きく単純に出現頻度や字体の簡略度によるものとはいえない。ただし選択問題の回答は漢字の出現頻度と関係があるのは完全には否定できない。数としては少ないが、筆記問題の誤字分析の結果をみると、漢字の構造部位による類似や意味と関連する類似による可能性が考えられる。

あと調査を行ってから思ったのが大学生を対象にすることが適切ではなかったのかもしれないということである。もう一度似たような調査を行う機会があれば、文学や国語を専攻している人や社会人を対象に、筆記問題を中心にし、調査を行うと、違った結果をえることができるかもしれない。

一方、漢字の知識が不足している人をこういう調査に協力させるのは興味深いと考えられる。被験者は漢字の書き方を頭の中で曖昧に把握している。彼らがおそらく由来も標準も知らず、考えなしに書いた漢字を分析すると、彼らが間違えやすい漢字や、彼らにとって具体的に何が難しいことが分かる。「餃」のへんとつくりの誤字での混合がこの一例である。

漢字の書き方と適切だと思う漢字の選び方が字によってかなり違うことが分かり、とても興味深かった。

本調査のように、一つの要素が一回しか出ないかわりに、より大規模な調査で同じ要素を持っている漢字をいくつか調査に用い、例えば「餃」だけではなく、「餅」も調査に使用するとより正確な結果が出るだろう。

日本人大学生は義務教育の課程で常用漢字の書き練習を終え、「嗅」という字の要素について深く考えずに、学校で習った「臭」を書いてしまう傾向がある。書き練習より、漢字の部首の知識が漢字の正書法、音韻体系と意味論の語彙的な知識の基礎である傾向にあるのが証明¹⁷されているので、義務教育の課程では、象形文字の構造の原理だけではなく、漢字の半分以上を占めている形成文字の構造の原理も教えた方が良いでしょう。漢字を習得するに苦勞している外国人のための日本語教育にもこういう知識を適応する価値はあると考えられるので、さらに調査を進めることができるだろう。

参考文献

- 「改定常用漢字表」(2010)文化審議会 pp.(13),(20)-(22),13,22
阿辻哲次(2010)『戦後日本漢字史』新潮選書 pp.121,206-207,209-210
池田証壽(2010)「漢字字体の変遷と字書記述との関連—観智院本『類聚名義抄』を例に」(『言語研究の諸相』北海道大学出版会 pp.75-86)
笹原宏之(2006)『日本の漢字』岩波新書 pp.121,122
芝野耕司(2009)「新常用漢字表のための漢字出現頻度調査」東京外国語大学
<https://sites.google.com/site/shibano/shin-jouyoukanji-hyou-no-tame-no-kanji-shutsugen-hindo-chousa> (閲覧日付 2011年8月1日)
Katsuo Tamaoka & Hiroyuki Yamada (2000) "The effects of stroke order and radicals on the knowledge of Japanese kanji orthography, phonology and semantics" ("Psychologia Vol. 43" Kyoto University pp.208)
「拡張新字体」 <http://ja.wikipedia.org/wiki/拡張新字体> (閲覧日付 2011年8月1日)

¹⁷ Tamaoka & Yamada (2000) pp. 208

Appendix 1 「調査の漢字」 (新しい常用漢字を除く)

当用字体	調査の例文	推測拡張新字体
餃 ぎょう	餃子を食べる	餃
鯛 いわし	鯛雲	鯛
疇 ちゅう	範疇	疇
靨 れき	青天の靨	靨
臍 ほぞ	臍を噛む	臍 簡略化された字体は医学関係者における位相文字。(笹原 2006 : 122)
齧 かじ(る)	木の実を齧る	齧
嘔 おう	苦しそうに嘔吐する	嘔
鸚 おう	鸚鵡返しに言う	鸚
樂 らん	一家団樂を楽しむ	樂
祀 し	祭祀遺跡	祀

<p>轢</p> <p>ひ (く)</p>	<p>トラックが通行人を 轢く</p>	
<p>鶯</p> <p>うぐいす</p>	<p>鶯張り</p>	
<p>痙</p> <p>けい</p>	<p>唇を痙攣させる</p>	 <p>簡略化された字体は医学関係者 における位相文字。(笹原 2006 : 121)</p>
<p>滲</p> <p>にじ (む)</p>	<p>包帯に血が滲む</p>	
<p>撥</p> <p>ばち</p>	<p>三味線の撥を持つ</p>	
<p>嘘</p> <p>うそ</p>	<p>嘘をつく</p>	
<p>諺</p> <p>ことわざ</p>	<p>諺で言う通り</p>	
<p>藪</p> <p>やぶ</p>	<p>藪をかきわけて進む</p>	
<p>簞</p> <p>たん</p>	<p>簞笥に洋服をしまう</p>	
<p>搦</p> <p>つか (める)</p>	<p>腕を搦む</p>	
<p>噌</p> <p>そ</p>	<p>味噌汁を飲む</p>	

<p>攪</p> <p>かく</p>	<p>情報網を攪乱する</p>	<p>攪</p>
<p>檜</p> <p>ひのき</p>	<p>檜の枝</p>	<p>桧</p>
<p>煉</p> <p>れん</p>	<p>煉瓦造りの家</p>	<p>煉</p>
<p>瀆</p> <p>とく</p>	<p>神を冒瀆する</p>	<p>瀆</p>

Appendix 2 「調査回答概要」

字	当用字体	拡張新字体	字	当用字体	拡張新字体
1.1 餃	3	5	2.12 瘰	50	1
1.2 嗅	6	10	2.13 滲	11	40
1.3 翮	0	24	2.14 撥	39	12
1.4 喩	27	3	2 総計	71% 10字	29% 4字
1.5 謎	0	30	3.1 嘘	0	51
1 総計	20% 1字	80% 4字	3.2 諺	8	43
2.1 疇	46	5	3.3 藪	30	21
2.2 震	18	33	3.4 箆	34	17
2.3 臍	37	14	3.5 摺	16	35
2.4 齧	17	34	3.6 噌	7	44
2.5 賭	14	37	3.7 攪	15	36
2.6 嘔	48	3	3.8 檜	40	11
2.7 鸚	33	18	3.9 煉	22	29
2.8 欒	49	2	3.10 洩	37	14
2.9 祀	47	4	3.11 葛	35	16
2.10 轢	41	10	3 総計	45% 5字	55% 6字
2.11 鶯	41	10	全 30 字	53% 16字	47% 14字

灰色に塗られているところの回答が最多。

Appendix 3 「筆記問題」

字	当用字体	拡張新字体
1.1 餃	餃 3	餃 5
1.2 嗅	嗅 6	嗅 10
1.3 鰭	鰭 0	鰭 24
1.4 喩	喩 27	喩 3
1.5 謎	謎 0	謎 30
1 総計	20% 1字	80% 4字

Appendix 4 当用字体の回答が多かった漢字

調査順番 (説明)	漢字	出現頻度
2. 1	疇	上位 2500 位にない
2. 1 (簡略化された音符)	寿	上位 2500 位にない
2. 3	臍	上位 2500 位にない
2. 3 (簡略化された音符)	齊	上位 2500 位にない
2. 6	嘔	2, 478 位
2. 6 (簡略化された音符)	区	454 位
2. 7	鸚	上位 2500 位にない
2. 7 (「きへん」と簡略化された音符)	桜	912 位
2. 8	欒	上位 2500 位にない
2. 8 (下心と簡略化された音符)	恋	657 位
2. 9	祀	2, 281 位
2. 9 (簡略化された部首と土)	社	44 位
2. 10	輓	上位 2500 位にない

2. 10 (簡略化された音符)	楽	60 位
2. 11	鶯	上位 2500 位にない
2. 11 (簡略化された音符がある漢字)	営	284 位
2. 12	瘞	上位 2500 位にない
2. 12 (簡略化された音符)	圣	上位 2500 位にない
2. 14	撥	2, 454 位
2. 14 (簡略化された音符)	発	49 位
3. 3	藪	上位 2500 位にない
3. 3 (簡略化された音符)	数	105 位
3. 4	箏	上位 2500 位にない
3. 4 (簡略化された音符)	单	243 位
3. 8	檜	2, 275 位
3. 8 (簡略化された音符)	会	18 位
3. 10	瀆	上位 2500 位にない

3.10 (簡略化された音符)	売	127 位
3.11	葛	1,699 位
3.11 (簡略化された音符がある漢字)	渴	上位 2500 位にない

Appendix 5 拡張新字体の回答が多かった漢字

調査順番 (説明)	漢字	出現頻度
2.2	靨	上位 2500 位にない
2.2 (簡略化された音符)	歴	607 位
2.4	齧	上位 2500 位にない
2.4 (簡略化された部首)	齒	743 位
2.5	賭	2016 位
2.5 (簡略化された音符)	者	36 位
2.13	滲	上位 2500 位にない
2.13 (簡略化された音符)	参	176 位
3.1	噓	上位 2500 位にない

3.1 (拡張新字体)	嘘	1526 位
3.1 (簡略化された音符)	虚	上位 2500 位にない
3.2	諺	上位 2500 位にない
3.2 (簡略化された音符)	彦	1,314 位
3.5	搦	上位 2500 位にない
3.5 (拡張新字体)	搦	1828 位
3.5 (簡略化された音符)	国	51 位
3.6	噌	1400 位
3.6 (簡略化された音符)	曾	1847 位
3.7	攪	上位 2500 位にない
2.7 (簡略化された音符)	覚	502 位

Appendix 6 「構造要素別考察・筆跡認識編」

字	当用字体	拡張新字体
2.1 疇	疇 46	 つくり、音符 5
2.2 震	震 18	 脚、音符 33
2.3 臍	臍 37	 つくり、(音符) 14
2.4 齧	齧 17	 脚、意符 34
2.5 賭	賭 14	 つくり、(音符) 37
2.6 嘔	嘔 48	 つくり、音符 3
2.7 鸚	鸚 33	 偏、音符 18

2.8 樂	樂 49	樂 冠、音符 2
2.9 祀	祀 47	祀 偏、意符 4
2.10 轆	轆 41	轆 つくり、(音符) 10
2.11 鶯	鶯 41	鶯 冠(音符) 10
2.12 瘞	瘞 50	瘞 脚、音符 1
2.13 滲	滲 11	滲 つくり、(音符) 40
2.14 撥	撥 39	撥 つくり、音符 12
2 総計	71% 10 字	29% 4 字
音符 :	6 字	1 字
(音符) :	3 字	2 字

Appendix 7 「構造要素別考察・活字認識編」

字	当用字体	拡張新字体
3.1 嘘	嘘 0	嘘 つくり、(音符) 51
3.2 諺	諺 8	諺 つくり、(音符) 43
3.3 藪	藪 30	藪 脚、(音符) 21
3.4 箆	箆 34	箆 脚、音符 17
3.5 搦	搦 16	搦 つくり、(音符) 35
3.6 噌	噌 7	噌 つくり、音符 44
3.7 攪	攪 15	攪 つくり、音符 36
3.8 檜	檜 40	檜 つくり、(音符) 11
3.9 煉	煉 22	煉 つくり、(音符) 29

3.10 瀆	瀆 37	澆 つくり、音符 14
3.11 葛	葛 35	葛 脚、(音符) 16
3 総計	45% 5字	55% 6字
音符：	2字	1字
(音符)：	3字	5字

Appendix 8 「筆記問題の回答に出た誤字」

漢字		回答数
1	餃	
1.1	飽	3
1.2	飽	2
1.3	飯	2
1.4	飢	1
1.5	飲	1
1.6	暇	1
1.7	餌	1
1.8	餌	1
1.9	郊	1
2	嗅	回答数
2.1	嗅	6
2.2	嗅	3
2.3	臭	2
2.4	啖	2
2.5	匂	2
2.6	嗅	1
2.7	嗅	1
3	鰯	回答数
3.1	鮮	1

3.2	鯉	1
3.3	鯽	1
4	喻	回答数
4.1	輸	2
4.2	諭	2
4.3	隄	1
4.4	愉	1
4.5	喩	1
4.6	噓	1
4.7	噙	1
4.8	愴	1
4.9	愉	1
4.10	撓	1
5	謎	回答数
5.1	迷	5
5.2	謎	2
5.3	誕	1
5.4	誅	1
5.5	謎	1
5.6	誕	1
5.7	繼	1

5.8	談	1
5.9	詠	1

Appendix 9 「アンケート調査」

アンケート調査の協力をお願い

このアンケートは、日本語日本文化研修プログラムの個人研究として行うものです。個人の評価などを付けることは一切ありません。また、データを本研究以外の場面で使うこともありません。ご協力、どうぞよろしくお願い致します。

イエスパー・リュセル

性別： 男 ・ 女

年齢：

1) 空白に適切な字を書いてください。

1.1) 子^{ぎょうざ}

1.2) 花の香りを^かぐ

1.3) 雲^{いわしぐも}

1.4) 比^ひ的^ゆな言い方^{てき}

1.5) ^{なぞ}を解く

2) 適切な字を選んでください。

2.1) 範^{はんちゆう}

2.2) 青天の霹^{へきれき}

2.3) ^{ほぞ}を噛む

疇 疇
塵 塵
臍 臍

2.4) 木の実を^{かじ}る

齧 齧

2.5) トランプにお金を^かける

賭 賭

2.6) 苦しうに^{おうと}吐する

嘔 嘔

2.7) ^{おうむ}鵠返しに言う

鸚 鵠

2.8) 一家団^{いっかだんらん}を楽しむ

樂 樂

2.9) 祭^{さいしいせき}遺跡

祀 祀

2.10) トラックが通行人を^ひく

輾 輾

2.11) ^{うぐいすば}張り

鶯 鶯

2.12) 唇を^{けいれん}攣させる

痙 痙

2.13) 包帯に血が^{にじ}む

滲 滲

2.14) 三味線の^{ばち}を持つ

撥 撥

3) 適切な字を選んでください。

- | | | |
|------------------------------------|---|---|
| 3.1) <small>うそ</small> __をつく | 嘘 | 嘘 |
| 3.2) <small>ことわざ</small> __で言う通り | 諺 | 諺 |
| 3.3) <small>やぶ</small> __をかきわけて進む | 藪 | 藪 |
| 3.4) <small>たんす</small> __笥に洋服をしまう | 箆 | 箆 |
| 3.5) <small>つか</small> 腕を__む | 搦 | 搦 |
| 3.6) <small>みそしる</small> 味__汁を飲む | 噌 | 噌 |
| 3.7) <small>かくらん</small> 情報網を__乱する | 攪 | 攪 |
| 3.8) <small>ひのき</small> __の枝 | 桧 | 檜 |
| 3.9) <small>れんがづく</small> __瓦造りの家 | 煉 | 煉 |
| 3.10) 神を冒__する | 瀆 | 瀆 |
| 3.11) マメ科の__ | 葛 | 葛 |